

外来語語末長音の表記のゆれについて

小 椋 秀 樹

一 はじめに

本稿は、小椋(二〇一三)に続き、外来語表記のゆれの実態について、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCWJとする^①)を活用した実態調査を行うものである。

日本語における表記の特色として、複数の文字種を使用すること、その結果として、語表記のゆれが多く見られることが挙げられる。この語表記のゆれの中でも、しばしば問題となるのが外来語表記のゆれである。

外来語表記にゆれが生じる要因の一つとして、国が定めた外来語表記の基準である『外来語の表記』(一九九一年、内閣告示第二号、内閣訓令第一号)の性格が挙げられる。『外来語の表記』は、「法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表すための「外来語の表記」のよりどころを示したものである。『外来語の表記』は、あくまで表

記に関する基準であり、「ハンカチ」と「ハンケチ」のような形にゆれがあるものについて、語形の統一を図ったり、語形選択の基準を示そうとしたりするものではない。また表記に関して、各分野における慣用を認める立場を取る。つまり、表記に關しても統一を図ろうとするものではないのである。このような『外来語の表記』の性格から、外来語表記に種々のゆれが見られる。

ところで、外来語表記のゆれの中でも、よく取り上げられるものとして、語末長音の表記が挙げられる。例えば、「コンピューター—コンピュータ」「フォルダー—フォルダ」のようなア段長音の表記のゆれや、「パーティー—パーティ」「テクノロジ—テクノロジ」のようなイ段長音の表記のゆれがある。この語末長音の表記のゆれは、小椋(二〇一三)で、BCWJのコアデータ^②に含まれる全てのレジスター^③に見られた。しかしコアデータに限定した調査であったため、用例数が少なく、ゆれの実態を詳細に把握することはできなかった。そこで、本稿では、BCWJの非コ

アデータも含めて資料とし、主に計量的な観点から、外来語語末長音のゆれの実態を明らかにする。

以下、二節で、外来語語末長音の表記に関する先行研究を概観し、三節で、『外来語の表記』等の表記の基準において、外来語語末長音の表記をどのように規定しているか確認する。四節で目的、調査資料、今回の調査で対象とする語末長音の範囲について述べ、五節で調査結果を報告する。最後に六節で本稿をまとめる。

なお、本稿では、語の表記を示す際には、「センター」のようにかぎ括弧を付けて示し、語を示す際には《センター》のように、語末の長音符号を省かずに表記し、二重山括弧を付けて示す。

二 先行研究

外来語語末長音の表記のゆれに関する先行研究を概観する。以下、実態調査に基づく先行研究とそれ以外の先行研究とに分けて見ていくこととする。

外来語表記のゆれについて、大規模な実態調査を行ったものとしては、宮島・高木（一九八四）と小椋（二〇一三）が挙げられる。

宮島・高木（一九八四）は、一九五六年発行の雑誌九〇種を対象とした外来語表記のゆれに関する調査報告である。国語審議会

部会報告「外来語の表記について」（一九五二年）に示された外来語表記の原則（二九項目）のうち、撥音、イ列・エ列の次の「ア」、外来語音「テイ」「デイ」、語末の e 等の表記など、七項目について、どのような表記が見られるのか、語ごとに示している。

このうち本稿と関わるのは、語末の e 等の表記である。これは、「外来語の表記について」に、

原語（特に英語）のつづりの終りの e 、 or 、 er 、などをかたかながきにする場合には、長音符号「ー」を用いる。

ライター (lighter) エレベーター (elevator)

ただし、これを省く慣用のあるものは必ずしもつけなくてもよい。

ハンマー (hammer) スリッパ (slipper) ドア (door)

とある規定について、雑誌九〇種での実態を調査したものである。結果は、語末長音を長音符号で表記した例が異なりで二七七であるのに対し、長音符号を省いた例は同一二と、長音符号で表記するものが圧倒的に多いことを明らかにしている。

宮島・高木（一九八四）は、外来語表記のゆれに関する数少ない大規模実態調査として、重要な先行研究である。しかし問題点として、調査対象年から既に五〇年以上経過していること、調査対象が単一のレジスターであることの二つが挙げられる。

そこで、複数のレジスターを対象として、より現在に近い時期における外来語表記のゆれの実態を明らかにしようとしたのが、小椋(二〇二二)である。高精度の形態素解析が施されたBCWJのコアデータ(約一三〇万語)を資料として、外来語表記のゆれの実態について見通しを立てることを目指したものである。調査の結果、(一) 外来語表記のゆれにはレジスターによる差異があること、(二) 外来語表記のゆれの類型についても、やはりレジスターによる差異があることを明らかにした。また、具体的にどのようなゆれがあるか調査し、長音に関する表記のゆれ(語末長音を長音符号で書くか省くか、語中長音を長音符号で書くか省くか)が全てのレジスターに見られること、語末長音の表記がゆれている語の多くは、語末がア段長音、イ段長音の語であることを指摘した。

小椋(二〇二二)の問題点としては、調査資料をBCWJのコアデータとしたため、得られた用例が少なく、十分な分析ができなかったことが挙げられる。これは、外来語表記のゆれの実態について見通しを立てることを目的として、調査の範囲をコアデータに限定したことによるものであり、やむを得ないことではある。今後、約一億語とこうBCWJの規模をいかにすべく、非コアデータも含めた、より大規模な調査を行う必要がある。

実態調査以外の先行研究としては、表記の基準に関するものがある。石野(一九九一)、山下(二〇二二)が挙げられる。

石野(一九九一)は、『外来語の表記』や放送における外来語

の発音・表記の基準を取り上げ、外来語の発音と表記との関係について述べたものである。この中で、発音と表記の不一致の例として、語末の《ティー》《ディー》が取り上げられている。

「レモンティー」は、だれもがこのように発音していると思われるが、これを「レモンテイ」と書く人がいる。同様に「シティー」と発音している人がほとんどだと思われるのに、広告などでは「シテイ」を目にすることがはなはだ多い。昔、暗殺された「ケネディー」大統領の名も、大抵の人が語尾を伸ばして発音していたはずだが、マスコミは統一的に「ケネデイ」と書いていた。なぜか世間には、「テイ」や「デイ」の音価を「ティー」「ディー」と誤解している人が多いようである。(四七～四八頁)

外来語語末長音の表記のゆれについては、英語等の語末 \dot{a} 、 \dot{o} 、 \dot{u} に当たるア段長音を取り上げられることが多い。しかし《ティー》《ディー》の表記にもゆれが見られるのであり、外来語語末長音の表記について考える際には、イ段長音も視野に入れる必要がある。

山下(二〇二二)は、NHK放送用語委員会における議論の概要を紹介したものである。この中で、放送における外来語表記の基準改定に関連して、外来語の語末長音の表記が議題となつている。英語等の語末の \dot{a} 、 \dot{o} 、 \dot{u} とは、NHK及び新聞各社で

は原則として長音で書き表すことにしている。しかし、語末の長音を省略した表記を目にすることも多いため、長音を表記するという原則を再確認するというところで、放送用語委員会で議題として取り上げられている。

これについて、表音一致の原則を守るという立場から、原則を支持する意見が委員から出されている。なお、「ティー」「ディー」については、「イ」が長音を含むと思っっている人が多いのではないか、実際の発音がゆれているのではないか、専門語的な感覚で書きたいということから長音符号が省略されるのではないかといった指摘がある。

以上、外来語表記のゆれに関する先行研究を概観した。外来語語末長音の表記のゆれに関する研究の課題としては、まず、非コアデータを含む BCWJ 全体を活用した大規模調査の必要性が挙げられる。その際、分析に十分な用例を得るとともに、レジスターによる差異に目を向けることも重要である。また、ア段長音だけではなく、イ段長音の表記も含めて調査を行う必要がある。

三 外来語表記の基準

本節では、『外来語の表記』をはじめとする外来語表記の基準において、外来語の語末長音の表記がどのように規定されているのか確認する。

『外来語の表記』では、語末長音の表記について、次のように

定められている。

英語の語末 \acute{a} 、 \acute{o} 、 \acute{u} などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。ただし、慣用に応じて「ー」を省くことができる。

〔例〕 エレベーター ギター コンピューター

マフラー エレベータ コンピュータ

スリッパ

長音符号で表記することを原則としつつも、長音符号を省く表記を慣用として認めている。ここにも、『外来語の表記』の緩やかな性格が現れている。

語末が \acute{u} の語については、規定がない。しかし付録の用例集に「アクセサリー」「エネルギー」「パーティー」「メロディー」といった表記が示されている。このことから、語末が \acute{u} の語についても、長音として長音符号を用いて書き表すのを原則としていると考えられる。

次に、新聞における基準の例として読売新聞社（二〇一一・六六八）を示す。

9 原語（とくに英語）の語尾 \acute{a} 、 \acute{o} 、 \acute{u} などは、長音符号「ー」で表すのを原則とする。

オブザーバー ドクター レギュラー

〔例外〕 エンジニア ギア ジュニア

10 原語の語尾の *ゝ* は、原則として長音符号「*ー*」で表す。

アカデミー カントリー

〔例外〕 サンクチュアリ パセリ ホームステイ

『外来語の表記』に従い、長音符号で書くのを原則としていることが確認できる。朝日新聞社用語幹事（二〇一二）、時事通信社（二〇一〇）も同様の規定である。

最後に JIS 規格での規定を確認しておく。JIS Z 8301: 2008 には、外来語の表記に関する規定があり、語末長音の表記について、次のように定められている。

英語の語尾に対応する長音符号の扱いは、通常、次による。

なお、英語の語末の *・a*、*・u*、*・i* などは、A列の長音とし、長音符号を用いて表すものに当たるとみなす。

a) 専門分野の用語の表記による。

注記 学術用語においては、原語（特に英語）のつづりの終わりの *・a*、*・u*、*・i* などを仮名書きにする場合に、長音符号を付けるか、付けないかについて厳格に一定にすることは困難であると認め、各用語集の表記をそれぞれ専門分野の標準とするが、長音符号は、用いても略しても誤りでないことにしている。

b) 規格の用語及び学術用語にない用語の語尾に付ける長音

符号は、表 G・3 による。

表 G・3 には、長音符号を除いた部分の拍数が三拍以上の場合は、長音符号を付けない（例…エレベータ）が、同じく二拍以下の場合には長音符号を付ける（例…カー、カパー）といった原則が示されている。なお書きに『外来語の表記』の原則に基づく記述が見られるものの、表記の統一は難しいとして、専門分野の慣習によるとしている。また、『外来語の表記』や新聞の基準にはない、拍数に基づく規定がある。

四 目的・資料等

四・一 目的

二節で述べた外来語語末長音の表記のゆれに関する研究の課題を踏まえ、本稿では、BCCWJ を資料として、新聞、雑誌、書籍、ウェブの五つのレジスターを対象に、外来語語末長音の表記のゆれの実態を計量的な手法によって明らかにしていく。

具体的には、外来語の語末長音の表記がどの程度ゆれているのかレジスターごとに調査し、レジスターによる差異を明らかにした上で、どのような語に語末長音表記のゆれが見られるのか、あるいは見られないのかについても見ていくこととする。

五 調査結果

五・一 レジスター別

各レジスターにおいて、どの程度、外来語語末長音の表記のゆれが見られるのか見ていくこととする。

表2に、語末長音の表記にゆれの見られる語の異なり語数（「ゆれなし」の欄）と、語末が^ム、^ンの語の異なり語数（「異なり」の欄）に占める割合を示した。また表2では、語末長音の表記にゆれの見られない語の異なり語数（「ゆれなし」の「計」の欄）を示すとともに、長音符号で書く表記のみが出現する語の異なり語数（「ゆれなし」の「符号」の欄）、長音符号を省く表記のみが出現する語の異なり語数（「ゆれなし」の「省略」の欄）も示した。

表2を見ると、表記のゆれの割合は、ウェブ（二三・〇％）が最も高く、書籍（二一・〇％）がそれに次ぐ。この二つのレジスターのゆれの割合が二割を超えている。雑誌は一五・三％で、ウェブ・書籍に近い傾向を示している。一方、新聞は、ゆれの割合が三・六％と四つのレジスターの中で最も低い。

表記にゆれの見られない語については、各レジスターとも長音符号で書く表記が、長音符号を省く表記よりも圧倒的に多いことが分かる。表記にゆれが見られない場合、『外来語の表記』の原則による表記が、ほとんどを占めているということになる。

表2 語末長音の表記にゆれのある語

	異なり	ゆれ	割合	ゆれなし		
				計	符号	省略
ウェブ	1106	254	23.0%	852	787	65
書籍	1233	259	21.0%	974	858	116
雑誌	891	136	15.3%	755	698	57
新聞	394	14	3.6%	380	364	16

表3 語末長音の表記にゆれのある語の割合
(度数2以上)

	異なり	ゆれ	割合	ゆれなし		
				計	符号	省略
ウェブ	934	254	27.2%	680	647	33
書籍	1042	259	24.9%	783	695	88
雑誌	720	136	18.9%	584	546	38
新聞	255	14	5.5%	241	238	3

ところで、表2は度数一の語を含んで集計したものである。当然のことではあるが、度数一の語に表記のゆれは発生しない。そこで、ゆれが生じる可能性のある度数二以上の語に限って集計し直した。結果は表3のとおりである。これは、ゆれが生じる可能性のある語が実際にどの程度ゆれているかを示したものである。表2と比べてレジスター別順位に変動はない。各レジスターとも、ゆれの割合は約二%から四%程度高くなっている。

新聞が他のレジスターと比べて、ゆれの割合が極端に低い要因

としては、外来語表記の基準が関わっていると考えられる。各社とも『外来語の表記』の原則に基づく表記、つまり長音符号を用いて書く表記を採用し、それに忠実に従っているため、語表記のゆれが低く抑えられていると考えられる。

それに対して、ゆれの割合が最も高いウェブでは、長音符号を書くか省くかは、全く個人の自由である。書籍も著者個人の自由度が高いと予想される。

なお新聞において、表記にゆれのある語が一四語あり、長音符号を省く表記のみが出現した語も三語ある。これらは、いずれも一般語が固有名として使われたもの（固有名の構成要素として使われたものも含む）である。次のような例がある。

- (1) 「秋津コミュニティ」は、習志野市立秋津小学校区の住民が (PN 4_d_00022)
- (2) 半導体メモリー製造販売のエルピーダメモリ（東京）は 九日 (PN 4_k_00016)
- (3) 行方不明者の家族と世界十八のアムネスティのグループが連帯して (PN 1_o_00014)

(1)から(2)が表記にゆれのある語、(3)が長音符号を省く表記のみが出現した語である。いずれも固有名で用いられたものである。外来語表記の基準が適用されないものであり、例外的なものとして位置付けられる。

表4 長音符号を付ける表記のみの語（度数上位5語）

ウェブ		書籍		雑誌		新聞	
サッカー	1169	リーダー	832	センター	699	センター	430
レーザー	883	サッカー	670	ユーザー	417	サッカー	224
ナンバー	795	マスター	506	サッカー	306	メンバー	202
アンサー	516	オーナー	489	メンバー	288	エネルギー	129
オーナー	505	ナンバー	387	エネルギー	267	メーカー	126

表5 長音符号を省く表記のみの語（度数上位5語）

ウェブ		書籍		雑誌	
モニタ	87	モニタ	132	セブリティ	14
リーダ	22	セクシャリティ	94	ユーザビリティ	12
バリスタ	13	リーダ	64	スタビリティ	8
コンパイラ	8	バイナリ	44	クラリティ	7
セクシャリティ	8	カウンティ	41	バイナリ	7

続いて、今回の調査で、語末長音の表記にゆれの生じていない語、ゆれが生じている語をレジスター別に見ていくこととする。まず、ゆれの生じていない語のうち上位五語を、レジスター別に表に示した。表4は長音符号で書く表記のみが出現した語とその度数を、表5は長音符号を省く表記のみが出現した語とその度数を示したものである。なお新聞では、長音符号を省く表記は、固有名での使用に限定されるため、表5では新聞を除外した。

表4に示した語を見ると、《エネルギー》以外、語末が_ムの語である。いずれも高頻度語であり、また複数のレジスターに出現する語が見られる。例えば、全レジスターに出現する語に《サッカー》が、二つのレジスターに出現する語に《ナンバー》《オーナー》《センター》《メンバー》がある。

表5に示した語を見ると、表4の語とは異なり、語末が_ムの語が多い。特に語末が_ムの語は、異なり一語のうち七語と、半数以上を占める。頻度については、表4の語に比べて低い。また拍数の多い語が多く見られる。長音符号を除いた部分の拍数は、《モニター》《リーダー》以外、全て四拍以上である。

なお、《モニター》《コンパイラー》《バイナリー》《スタビリティ》は、

- (4) 画像の1ピクセルがモニターの1ピクセルとして再現されず。(PB_40_00027)
- (5) コンパイラが実行可能な命令に変換するのは。(PB_50_

外来語語末長音の表記のゆれについて

- 00065)
- (6) 実行ファイルのバイナリを数文字書き換えるだけで(OY_15_04776)
- (7) 4WDシステムは圧倒的なスタビリティを確保、(PM_45_00083)

とあるように、技術系の専門用語として位置付けられる語である。イ段長音の《バイナリー》《スタビリティ》も含めてJISの規定の影響も考えられる。

次に、表記にゆれが生じている語を見ていく。ただしゆれが生じているといっても、ゆれの程度には段階がある。例えば《センター》は、書籍、ウェブでゆれが見られる。ただし表記の度数を見ると、書籍では、「センター」二〇五三に対し「センタ」二八、ウェブでは、「センター」二〇五三に対し「センタ」一九で、両レジスターとも長音符号を付ける表記が約九九%を占める。このように、ゆれが生じているといっても、一方の表記に偏る語もある。それに対して、長音符号を付ける表記と省く表記とがほぼ同じような割合で出現している語もある。そこで、ここでは、長音符号を付ける表記の割合が四〇%から六〇%の語、つまり長音符号を付ける表記と省く表記とが同程度に用いられている語を見ることとする。表6に、レジスター別に度数上位五語までを示した。表6には、長音符号を用いる表記の用例数(「符号」欄)と長音符号を省く表記の用例数(「省略」欄)を示した。なお、表

表6 表記にゆれの見られる語 (度数上位5語)

	ウェブ		書籍			雑誌		
	符号	省略	符号	省略	符号	省略		
カテゴリー	248	251	パーティー	362	469	メモリー	139	140
プリンター	209	240	フィルター	294	212	パーティー	121	156
メロディー	113	126	メロディー	110	118	サーバー	106	87
バラエティー	126	111	ミステリー	80	65	バラエティー	51	60
アダプター	86	94	コンデンサー	50	53	フォルダー	46	39

5と同様の理由で新聞を除外した。

表6を見ると、語末が_レ、_ルの語は、いずれも六語(異なる語数)である。複数のレジスターに出現する語は、『パーティー』、『バラエティー』、『メロディー』で、全て語末が_レの語である。

ところで、表4・表5・表6からは、次のようなことも指摘できる。『外来語の表記』をはじめとする外来語表記の基準では、語末が_ル、_ルの語は、語末を長音とし、長音符号で表記するのを原則とする。この原則に従った表記で安定している語には、語末が_ルの語が多い。一方、原則とは異なり長音符号を省く表記で安定している語には、語末が_ルの語が多い。外来語語末長音の表記のゆれには、レジスターによる差異に加

えて、語末による差異も見られるようである。そこで次節では、英語の語末別に表記のゆれを見ていくこととする。

五・二 英語語末別

英語の語末別に表記のゆれの割合に差異があるのか見る。表7は、度数2以上の外来語を対象に語末別にゆれの割合を示したものである。「_ル」の欄は語末が_ル、_ル、_ル、_ルの語をまとめたもので、「_ル」の欄は語末が_ル、_ル、_ル、_ルの語をまとめたものである。レジスター別ではなく、全体をまとめて集計した。

表7から語末が_ルの語よりも語末が_ルの語の方が、表記のゆれの割合が高いことが分かる。ゆれが生じていない語について見ると、語末が_ルの語は、長音符号で表記するものの割合が九五・九%と、かなり高い割合であるのに対して、語末が_ルの語は七八・三%と語末が_ルの語よりも低い割合となっている。語末が_ルの語の方が、『外来語の表記』の原則に従って表記する傾向が強いといえよう。

次に、表7の内訳として、_ル、_ル、_ル、_ル、_ル、_ルに分け、表記のゆれの割合を見ていく。各語末の語の表記のゆれの割合等を表8として示した。

表8を見ると、語末によってゆれの割合に差のあることが分かる。その中でも、語末_ルと_ルの割合の高さが注目される。語末が_ル、_ル以外の語における表記のゆれの割合が、一割台から三割台の範囲にあるのに対して、語末が_ルの語は八〇・八

表7 表記にゆれのある語の割合（語末別、度数2以上）

	異なり	ゆれ	割合	ゆれなし		
				計	符号	省略
-r	996	238	23.9%	758	727	31
-y	305	139	45.6%	166	130	36

表8 表記にゆれのある語の割合（内訳、度数2以上）

	異なり	ゆれ	割合	ゆれなし		
				計	符号	省略
-ar	45	7	15.6%	38	38	0
-er	800	174	21.8%	626	607	19
-or	151	57	37.7%	94	82	12
-gy	42	6	14.3%	36	36	0
-dy	26	21	80.8%	5	4	1
-ry	115	36	31.3%	79	78	1
-ty	122	76	62.3%	46	12	34

％、語末が α の語は六二・三％と極端に高い。語末が β の語は、長音符号で表記した語のみ出現した割合が二六・一％と、他の語末に比べて極端に低い。

語末が α の語うち、ゆれの割合が四〇％から六〇％の語を度数順に挙げると、《パーティー》《バラエティー》《チャリティー》《ビューティー》《フルーティー》などがある。同様に、語末が β の語には、《メロディー》《キャンディー》《スピーディー》《ラブ

ソディー》《ヌードリー》などがある。一般語が多く、長音符号を除いた部分の拍数も三拍のものが多く。
語末が α の語のうち、長音符号を省く表記の例のみの語は、《セクシャリティー》《エクイティー》《アクセシビリティ》《ケーパーティ》《スタビリティ》などである。拍数が多く、先に見た《スタビリティ》以外の例を見てみると、

- (8) 用語としては「セクシャリテイ」と「性」を同義語として用いている (PB 43_00617)
- (9) リターン・オン・エクイティというのですが、株に対するリターン (LBJ 3_00002)
- (10) 専門は、バリアフリー教育、障害者福祉、アクセシビリティ。(OY 14_1833)
- (11) ケイパビリティを確立しないと中小企業の事業開発は完成しない (PB 33_00113)

と使われていることから分かるように、専門用語として位置付けられる語である。

語末が α の語にゆれが生じる要因として、石野（一九九一）が指摘するように「テイ」の音価にゆれが見られるということが挙げられよう。「テイ」を長音《ティー》の音と理解していれば、長音符号を省くことにつながる。

これ以外に、原語の発音の影響も考えられる。《セクシャリテ

イー》(sexuality)、《アクセシビリティ》(accessibility)等の語末 ν の発音は、弱母音 ν である。 ν のうち語末に現れるものの発音については、「イー」を弱くやや長めに発音すればよく」(竹林・斎藤二〇〇八：六四)と述べられている。原語の発音が明確な長音でないことから、原語を意識した場合、長音符号を省く傾向が生じている可能性があるだろう。専門用語の場合は、特にその傾向が強くなるのではなからうか。

しかし、語末が ν の語の中でも、表8に示したように、ゆれが生じる割合、長音符号で表記した語のみが出現した割合に違いがある。各語末に該当する語について、意味分野の観点などから詳細に検討していく必要がある。今後の課題としたい。

六 終わりに

本稿では、BCCWJの四つのレジスター(新聞、雑誌、書籍、ウェブ)を対象に外来語語末長音の表記のゆれについて実態調査を行った。その結果、次のことが明らかとなった。

- (一) 外来語語末長音の表記のゆれにはレジスターによる差異が見られる。ウェブ・書籍・雑誌は、ゆれの割合の高いレジスターといえる。一方、新聞は『外来語の表記』¹⁾、新聞各社の表記の基準に忠実に従い、表記をかなり統一している。

(二) 外来語語末長音の表記のゆれには、英語の語末による差異も見られる。語末が ν の語よりも語末が ν の語の方がゆれの割合が高い。

(三) 語末が ν の語の中でも、語末が ν 、 ν の語のゆれの割合が高い。また、語末が ν の語は、長音符号で表記した語のみ出現した割合が二六・一%と、他の語末に比べて極端に低い。

一方、本稿では、語末長音の表記にゆれが生じる要因について明らかにするには至っていない。原語の語末という観点に加え、例えば、意味分野の観点などから検討を行う必要がある。

また、外来語語末長音の表記には、原語での発音に加え、日本人が外来語として、どのように発音しているかということも関わする。前川(二〇〇二)では、外来語の語末長音について、外来語は漢語より短呼率が高いこと、アクセント規則と核の有無の効果との相乗効果で、語末における短呼率が高いことを指摘している。つまり、外来語の語末長音は、元々語形が不安定であり、その不安定さが表記のゆれに反映しているとも考えられる。『日本語話し言葉コーパス』を資料として、発音のゆれについても確認しておく必要がある。今後の課題としたい。

注

(一) BCCWJ は、Balanced Corpus of Contemporary Written Japa-

rise の略である。その設計等については、前川(二〇〇八)、山崎誠(二〇〇九)、同(二〇一一)を参照。

(2) BCCWJ におけるレジスターとは、「言語が実際に運用される場の社会的状況―例えば発話の目的、発話者の属性、受容者との関係など―に依存して定まる言語の変種で、発話の全体にわたって分布する言語特徴によって決定されるもの」(前川二〇一一:二二六)という意味である。

(3) BCCWJ のコアデータの設計・構成等については、小椋・小木曾・小磯ほか(二〇〇九)を参照。

(4) 長単位、短単位の設計方針、認定規程等については、小椋・小磯・富士池ほか(二〇一一)を参照。

謝辞 本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト(基幹型)「コーパス日本語学の創成」、同「多角的アプローチによる現代日本語の動態の解明」、JSPS 科研費「大規模コーパスに基づく現代語表記のゆれの実態解明」(課題番号: 25370532) による補助を得た。

参考文献

朝日新聞社用語幹事(二〇一二)『朝日新聞の用語の手引き』、朝日新聞出版
石野博史(一九九一)「表音と表語 ―外来語・外国語の発音と表記」、『日本語学』一〇一七、四五～五二頁

小椋秀樹(二〇一三)「現代日本語における外来語表記のゆれ」、相澤正夫編『現代日本語の動態研究』、おうふう、一五七～一七一頁

小椋秀樹・小木曾智信・小磯花絵・富士池優美・宮内佐夜香・渡部涼子・竹内ゆかり・小川志乃・小西光・原裕・中村壯範(二〇〇九)「現代日本語書き言葉均衡コーパス」における形態論情報付与作業の進捗状況」、「特定領域「日本語コーパス」平成二〇年度公開ワークショップ(研究成果報告会) 予稿集」、五七～六四頁

小椋秀樹・小磯花絵・富士池優美・宮内佐夜香・小西光・原裕(二〇一一)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 第四版(上・下) (国立国語研究所内部報告書 LR-CCG-10-05-01、LR-CCG-10-05-02)

時事通信社(二〇一〇)『最新用字用語ブック 第六版』、時事通信社

竹林滋・齋藤弘子(二〇〇八)『新装版 英語音声学入門』、大修館書店

前川喜久雄(二〇〇二)「話し言葉における長母音の短呼 ―『日本語話し言葉コーパス』を用いた音声変異の分析―」、『国語学会二〇〇二年度春季大会要旨集』、四三～五〇頁

前川喜久雄(二〇〇八)『KOTONOHA』現代日本語書き言葉均衡コーパス』の開発』『日本語の研究』四一一、八二～

九五頁

前川喜久雄（二〇一三）「形容詞＋です」述語の生起要因についての準備的考察」、『第一回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』、二二一～二二〇頁

宮島達夫・高木翠（一九八四）「雑誌九十種資料の外来語表記」、『国立国語研究所報告七九研究報告集』五、四三～七六頁

山崎誠（二〇〇九）「代表性を有する現代日本語籍コーパスの構築」、『人工知能学会誌』二四一五、六二三～六三二

山崎誠（二〇一三）第二章『現代日本語き言葉均衡コーパス』の設計」、国立国語研究所『現代日本語き言葉均衡コーパス』利用の手引 第1.0版』
http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/doc.html よりダウンロード可能)

山下洋子（二〇一三）「外来語の発音・表記について」～『we!』のカタカナ表記と語末の長音～』『放送研究と調査』六二―一二、七四～七九頁

読売新聞社（二〇一三）『読売新聞用字用語の手引き 第三版』、中央公論新社

関連URL

文化庁・国語施策情報： http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/ohoh/index.html

日本工業標準調査会： <https://www.jisc.go.jp/>

（おぐら・ひでき 本学准教授）